

クラウドのメリットをオンプレミスのワークロードでも活用

vSphere+ は、IT 管理者、開発者、ビジネス上の意思決定者をサポートするマルチクラウド ワークロード対応プラットフォーム

従来のワークロードと次世代のワークロードの両方を管理

- **IT 管理者**：インフラストラクチャのサイロ化によって、Dev Ops チームや LOB へのインフラストラクチャの提供において求められるスピードを維持することが困難になっています。また、場合によっては地理的に分散的に配置されるなど、ますます複雑化する複数にわたる vCenter 環境を管理、保護するために効率性を向上させなければならぬというプレッシャーもあります。
- **開発者チーム**：開発者チームは、Kubernetes 環境のネットワークとストレージに関連するインフラストラクチャの運用に多くの時間をとられており、開発のための時間が奪われています。
- **ビジネス上の意思決定者**：
 - クラウドのメリットを利用できない：パブリッククラウドは、ハイパースケーリング、ユニバーサル アクセス、低メンテナンス、開発者の俊敏性、レジリエンス、柔軟な消費モデルなどのメリットを提供しますが、オンプレミスのワークロードはこれらのメリットを活用することができません。
 - 無期限ライセンスの複雑さと制約：従来の無期限ライセンス方式は昨今のビジネスのニーズに合致していないため、エンタイトルメントが要件を満たせない事態や、意図せずにエンド ユーザー使用許諾契約書 (EULA) に違反する事態などが起こります。

企業はさまざまな理由から、ワークロードの多くを従来型のオンプレミス データセンターで実行しています。たとえば、経済性、ネットワーク帯域幅、低遅延、データ プライバシー / データ主権、コンプライアンス、リファクタリングや移行の技術的な複雑さなどの理由からです。これらのワークロードは、クラウドサービスによって強化することが可能です。企業は、既存のオンプレミスのメリットを最大限に活用できるように、IT 管理者、開発者チーム、ビジネス上の意思決定者を支援する必要があります。

VMware vSphere+

VMware vSphere+™ は、このような多くのニーズに応え、お客様がオンプレミスとクラウドの両方のメリットを受けられるようにします。ワークロードが実行される場所を問わず、どのワークロードに対しても、一貫性のある統合された VMware Cloud™ 環境を実現します。VMware vSphere+ は、クラウドのメリットをオンプレミスのワークロードにもたらすマルチクラウド ワークロード対応プラットフォームです。vSphere+ では業界をリードする仮想化テクノロジー、エンタープライズ対応の Kubernetes 環境、高価値のクラウドサービスを組み合わせることが可能になり、既存のオンプレミス環境を、柔軟なサブスクリプション プランで購入可能な SaaS 対応のインフラストラクチャへと変革することができます。vSphere+ を利用すると、IT 管理者と開発者は従来型のアプリケーションと次世代型のアプリケーションの構築、実行、管理、保護、セキュリティ確保を容易に行うことができます。

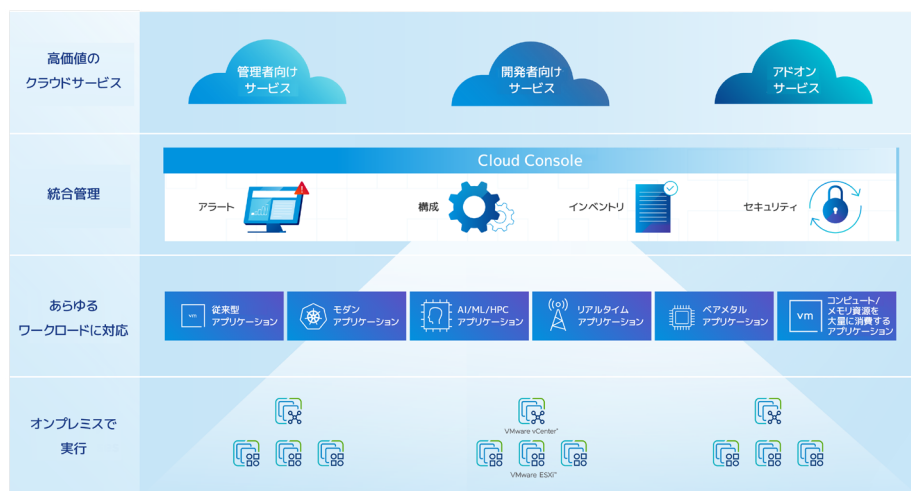


図 1: vSphere+ はオンプレミスのワークロードにクラウドのメリットを提供



vSphere+ のメリット

管理者向けサービスにより生産性を大幅に向上

- Cloud Console を使用して管理とガバナンスを一元化することで、運用効率が向上します。
- クラウドを活用した自動化により vCenter のライフサイクル管理を簡素化し、構成エラーを即座に修正できます。
- インベントリ、アラート ステータス、セキュリティ ポスチャのグローバルな監視を容易にし、任意の vSphere クラスタに仮想マシンをプロビジョニングできます。

開発者向けサービスによりイノベーションを加速

- 既存の仮想インフラストラクチャをエンタープライズクラスのセルフサービス型の Kubernetes プラットフォームに変えることができます。
- ログ収集、レジストリ、監視、Ingress などが統合されているため、プラットフォームの管理を効率化できます。
- マルチクラウド管理プレーンでプラットフォームの運用を一元的に管理し、Kubernetes クラスタのセキュリティとガバナンスを向上できます。

クラウドとの統合によりオンプレミスのインフラを変革

- ワークロードを停止することなく、クラウドのメリットを活かしながら、既存の vSphere 導入環境を強化できます。
- ディザスタ リカバリ、ランサムウェア防御、キャパシティ プランニングを加速するアドオンのハイブリッドクラウドサービスをアクティブ化できます。
- 既存の投資の ROI を改善しながら、OpEx ベースの消費モデルによる柔軟性を獲得できます。



管理者向けサービスにより生産性を大幅に向上

Cloud Console によって管理とガバナンスが統合されることで効率が向上します。vSphere 環境全体にわたってタスクの実行を集約的に行うことができ、運用負荷が大幅に削減されます。たとえば、vSphere 環境全体にわたるリソースの利用状況を即座に把握し、注意を要する領域を特定し、セキュリティ上の脆弱性やリスクを特定することで、環境を適切に運用できます。



開発者向けサービスによりイノベーションを加速

vSphere+ の開発者向けサービス (Tanzu Kubernetes Grid™ サービス、ストレージ サービス、ネットワーク サービス、レジストリ サービス、VM サービス) を活用すると、既存の仮想インフラストラクチャがエンタープライズ対応のセルフサービス型 Kubernetes プラットフォームに変わります。ログ収集サービス、監視サービス、ネットワーク サービス、ストレージ サービスなど、ローカルおよびクラスタ内のプラットフォーム サービスの展開と管理を効率化することで、本番環境対応の Kubernetes 環境を容易に構成して維持できます。開発者は標準の Kubernetes コマンドと API を使用してセルフサービス インフラストラクチャにアクセスできるため、管理に費やす時間を減らし、イノベーションのための時間を増やすことができます。たとえば、既存のネットワークとストレージを利用して、エンタープライズクラスの Kubernetes インフラストラクチャを 1 時間以内で構成できます。また、シンプルで俊敏なセルフサービス環境を使用して、Tanzu Kubernetes クラスタを数分以内でプロビジョニングすることもできます。



クラウドとの統合により、オンプレミスのインフラストラクチャを変革

ワークロードを停止することなく、クラウドのメリットを活かしながら、既存のオンプレミス環境をインプレースで強化できます。vSphere+ により、ワークロードとデータはすべて、オンプレミスでそのまま維持されます。仮にクラウドへの接続が切断されたとしても、影響を受けるのはクラウドサービスだけで、オンプレミスのすべての vSphere 機能を使い続けることができます。現時点では、vSphere のハイレベルな管理を Cloud Console で実施することができます。今後、VMware のその他の SaaS サービスがリリースされ次第、それらのサービスも簡単に利用できるようになります。

vSphere+ は、柔軟でシンプルなサブスクリプションとして購入できます。単一の SKU にすべてのコンポーネント (vCenter、ESXi ホスト) とサポートが含まれています。つまり、設備投資コスト (CapEx) が運用コスト (OpEx) に切り替わるため、予算管理の改善に貢献します。利用に応じた支払いというモデルのため、事前に多額の費用を用意する必要がありません。1 年または 3 年分の必要なコア キャパシティをまず購入し、キャパシティを超過して使用した分は別途支払うというシンプルな料金体系です。

クラウドのメリットをオンプレミスのワークロードでも活用

詳細情報

詳細はこちらから：

<https://www.vmware.com/jp/products/vsphere.html>

ハンズオン ラボでお試してください：

<https://www.vmware.com/jp/try-vmware.html>

Cloud Console

vSphere+ は、すべての vCenter インスタンス（管理者が任意に選択）を VMware Cloud に接続し、管理を一元化します。vCenter クラウド ゲートウェイをオンプレミスにインストールし、vCenter に接続すると、VMware Cloud Console に表示するための必要最小限のデータが収集されます。管理者はこのコンソールで vSphere 環境全体を確認することができ、イベント、アラート、リソース キャパシティを一元的に監視し、未対応のセキュリティ脆弱性を特定することができます。ワンクリックで vCenter インスタンスをわずか数分でアップデートすることもできます。これにより、運用の負荷を減らし、必要なメンテナンス ウィンドウを短縮することができます。